

薬学への招待

Invitation to Pharmacy

薬：A1-03101MY

素養科目 1年／前・後期 2単位 必修科目

科目責任者 薬学科学科長

■ 教育目的

薬学は時代の変遷とともに受け持つ分野が拡大している。また、社会の要請に従って変化して行く。

薬学は『くすり』についての総合科学である。新しい『くすり』をつくる創薬科学、『くすり』の作用と生体の機能を解き明かす薬学独自の生命科学、そして病気の予防、保健などに深いかかわりをもつ衛生薬学、さらに医療の現場で『くすり』を適正に使用することを学ぶ医療薬学に至るまで、薬学は幅広く奥の深いものである。

本講義は薬学部に入學した学生に、「薬学とは何か」を伝える導入教育である。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-①、YD-②、YD-⑤】

■ 学習到達目標

1. 「薬学とは何か」を命題としてもち、充実した学生生活を送るために、薬学の目指す学問領域、薬剤師および薬学研究者の職域とその任務について概要を理解する。(知識)
2. 体験(附属薬局見学)を通して薬学へのモチベーションを高める。(知識、態度)
3. 多職種連携教育(IPE)では、薬学以外の医療系職種との共通基盤を理解し、その上で各自の専門性を深め、他の職種と連携して活動できるように、連携の重要性を理解し、自覚を養う。(知識、技能、態度)

■ 準備学習(予習・復習)

予習：授業内容のキーワードを調べてみる。(30分以上)

復習：講義で興味や疑問をおぼえた箇所などを積極的に調べ、「薬学とは何か」を探究する。(30分以上)

■ 授業形態

ディスカッション・ディベート、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク、講義

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1～2	本学の教育理念	明治薬科大学の歴史と使命、本学の教育理念	
3～4	早期体験学習	附属薬局見学に向けたオリエンテーション、附属薬局見学(5月から)	
5～6	多職種連携教育	多職種連携教育に向けたオリエンテーション、防衛医科大学校医学部、看護学部との多職種連携教育(8月)	
7～8	薬学と社会	薬学を取り巻く法律と制度、社会保障制度	
9	健康薬学	生活の中の食品衛生	
10	薬の効果と個人差 薬の相互作用	薬の体内運命と成長・加齢・疾病の関係、薬の作用メカニズム、薬の作用が他の薬によって変わる理由	
11	医療と薬剤師 1	多様な社会ニーズに応える将来の薬剤師のあり方	
12	医療と薬剤師 2	小児周産期医療と薬剤師の役割	
13	医療と薬剤師 3	臨床現場から見る薬剤師の現在と目指す未来	
14	医療と企業をつなぐ医薬情報担当者	医薬情報担当者(MR)の社会的使命とその資質を担保するMR認定制度	
15	薬学に求められる倫理観	薬学に求められる具体的な医療倫理から研究倫理まで	

■ 授業分担者

No.1, 2: 越前 宏俊 No.3, 4: 下川 健一 No.5, 6: 浦生 修治 No.7, 8: 廣瀬 誠 No.9: 石井 里枝 No.10: 花田 和彦 No.11: 安 武夫 No.12, 13: 山谷 明正 No.14: 小日向 強(学外講師)、No.15: 有江 文栄(学外講師)

■ 課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

「薬学への招待」講義課題提出(70%)、附属薬局見学(10%)、多職種連携教育(IPE)(20%)、ルーブリック評価)により総合的に評価する。

■ 参考書

『ヒューマニズム・薬学入門』日本薬学会 編(東京化学同人)

『薬学と社会』日本薬学会 編(東京化学同人)『早期臨床体験テキスト』田口 忠緒 編(ネオメディカル)

『薬学概論』沢村 良二 編(南山堂)『薬学概論 改訂第4版』辰野 高司 他 編(南江堂)